



INFORMATION

【城山エコミュージアムツアーのお知らせ】

城山の山裾を歩こう！

中世、山城を構えた宝ヶ峰（城山）は相模丘中学校の校歌にも歌われる自然と歴史の宝庫。山頂には行きませんが、秋の城山公園を満喫します。

日時：令和8年10月24日（土）9:00～12:00

※雨天中止

※参加費無料

参加者募集

◇集合：津久井湖城山公園花の苑地
（津久井湖観光センター・緑区太井1274 神奈中バス津久井湖観光センター前下車）

<行程：津久井湖花の苑地・江川ヒノキ林・展望デッキ・展望広場・パークセンター・諏訪神社・湖畔展望園路・津久井湖花の苑地>

◇定員：20名（先着順） 申込期間：9/16～10/21

◇申込・問い合わせ：城山公民館 TEL：042-783-8194

※月曜および祝日の翌日を除いた午前9時～午後5時

主催：城山公民館 主管：城山エコミュージアム委員会



城山検定

答え：3.ひなしざわ

城山地域には歴史的地名標柱が数多く見られます。

尻無沢は都井沢（現在の城山4丁目）にあり、標柱の碑文によると、「この地は水に乏しく、沢の湧き水も川に達することなく消えるのでこの名前がある」と記されています。

地域の人話では、「この辺は昔（都井沢の前）は『尻無沢』と呼ばれた。水の乏しいこの地に水道が引かれたのは昭和30年代初めで、それまでは井戸と湧き水が頼りだった。井戸のある家と、共同の水場として裏山からの湧き水を『分水槽』に貯め、竹の樋を使って家庭に配水していた。竹の節抜きと接続、埋没に苦労した」など、古老の昔話として残っています。現在も分水槽は残っており、竹から塩ビ管に替わって家庭の池などに配水されています。尚、この場所は私有地につき勝手に立ち入ることは出来ません。



<分水槽 蓋を開けた所 H27撮影>

小さな自然発見



キンラン

（多羽田 啓子 5月撮影）

◆城山エコミュージアム委員会では常時委員を募集しています。毎月第1水曜日に定例会を行っていますので、公民館へお声がけください。



編集後記

平成19年（2007）に創刊号を発行してから第50号！これは城山地域の自然・歴史・人々の営みが豊かな証しでしょう。これからも広くて深い内容を目指して作り続けていきたいと思います。

さて、次の第51号は…

（金子 直美）

企画/作成：

相模原市立城山公民館 城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

城山公民館ホームページQRコード



ホームページをパソコンで見るときは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

城山エコミュージアム通信

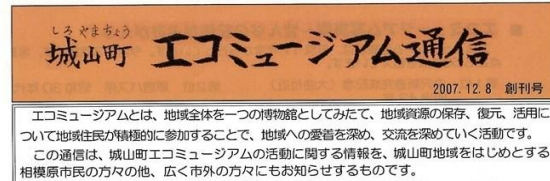
令和8年（2026）8月15日 第50号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方のもとに、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



城山エコミュージアム通信第50号を記念して！

創刊号(2007年12月8日発行)



本号では、掘り起こした地域の資源を博物館の展示物として、解説資料や地元の人話を聞きながら巡るエコミュージアムツアー、地域の記憶を写真で紹介する写真展、昔の道を訪ね歩いて作る昔の道地図づくりの3つの活動の近況についてお知らせします。

■エコミュージアムツアー～地域の姿がよみがえる！



エコミュージアムツアーは、平成15年度から行っています。今回で8つ目のモデルコースが生まれました。メンバーが地域の中に出向いて、地域固有の歴史や自然を調べ、語り部を拜見します。その成果をエコミュージアムツアーとして、多くの市民の方々に案内します。地域にとって、ツアーの記録や語り部の皆様が大切な財産となるようにとの思いで活動しています。

■エコミュージアム写真展～昔の姿の記憶がよみがえる！

エコミュージアム写真展は、平成17年度から行っています。今回は3回目を、写真の命題も500の命題を掲げています。



写真展	写真展
1 中井新道完成記念(大倉付近) 明治43年頃	17
2 津久井湖花の苑地 昭和30年代	18
3 津久井湖花の苑地 昭和30年代	19
4 津久井湖花の苑地 昭和30年代	20
5 津久井湖花の苑地 昭和30年代	21
6 津久井湖花の苑地 昭和30年代	22
7 津久井湖花の苑地 昭和30年代	23
8 津久井湖花の苑地 昭和30年代	24
9 津久井湖花の苑地 昭和30年代	25
10 津久井湖花の苑地 昭和30年代	26
11 津久井湖花の苑地 昭和30年代	27
12 津久井湖花の苑地 昭和30年代	28
13 津久井湖花の苑地 昭和30年代	29
14 津久井湖花の苑地 昭和30年代	30
15 津久井湖花の苑地 昭和30年代	31
16 津久井湖花の苑地 昭和30年代	32

■昔の道の地図づくり～昔の姿がよみがえる！



昔の道の地図づくりは平成17年度から行っています。メンバーが現地を歩いて調べた成果が少しずつ形になってきました。城山地区の歴史を伝える貴重な資料です。

創刊号表面

裏面

城山エコミュージアム発行物類



エコミュージアムのみち、ガイドブック、地図など

城山エコミュージアムの活動は、元城山町町長加藤正彦氏の公約として生涯学習の目的で、教育委員会が事業を推進する形で始まりました。町民公募で、「城山町エコミュージアムを育てる会」が発足、平成15年（2003）エコミュージアムツアーを開始し、城山地区を紹介するモデルコースを作ってきました。

現在は城山公民館の専門部として、ツアーやエコミュージアムのつどいを開催しています。城山エコミュージアム通信・活動については相模原市ホームページ、城山公民館ホームページからご覧いただけます。

（田畑 房枝）



今回のトピック ■特集「通信 第50号を記念して」■城山エコミュージアムのつどい報告■城山探訪「津久井観音霊場本開帳」■しろやまミニ図鑑「ニホンリス」■城山検定■活動報告他■インフォメーション「ツアーのお知らせ」他



令和7年度「城山エコミュージアムのつどい」を開催しました！

日時：令和8年2月14日（土） 13：30～16：00
場所：城山公民館 大会議室 参加者：40名

【活動発表】

＜活動紹介＞ 城山エコミュージアム委員会の活動主旨と年間の活動内容を説明しました。

＜事例発表＞ 日頃から調べている「仙洞寺山について」を高橋さん、「食べられる野草について」は実際に自分の庭で採集した植物を調理して食べる活動を金子さんが発表しました。

＜ポスター展示＞

エコミュージアムツアーやつどいの歴史、城山地区にある標柱の紹介など、ポスターを作り展示しました。



【講演】「津久井城～500周年を迎えた、魅力あふれる地域の宝」

講師：野口 浩史氏（公財）神奈川県公園協会津久井湖城山公園園長



話題が盛りだくさんの津久井城500周年ですが、四つの「宝」をキーワードに、津久井城の歴史について現在の城山で見ることができる遺構や発掘された資料を読み解きました。

- 1, 山の特徴を生かした関東屈指の山城だったこと
- 2, 出土した土器から金を造っていたのではと推察されること
- 3, 「御林」「里山」としての歴史がはぐくんだ豊かな自然
- 4, 地域の歴史を守りはぐくむ地域の人々

という四つの「宝」を城山公園はこれからも守り紹介していきますとの力強い言葉をいただいた講演でした。（田畑 房枝）



※「学びの収穫祭」出展

日時：令和8年2月28日（土）～3月1日（日）
令和6年度に行われた城山エコミュージアムツアー「穴川の里を訪ねて」のポスター展示

※「城山公民館まつり」出展

日時：令和8年3月7日（土）～3月15日（日）

※ 城山エコミュージアム委員会全体会 開催

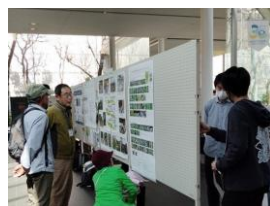
日時：令和8年4月8日（水）令和8年度の活動計画が決まりました。

※ 学習会開催

日時：令和8年5月13日（水）「雛鶴姫と雛鶴神社」高橋 告郎

日時：令和8年6月10日（水）「竹について」高橋 告郎

日時：令和8年7月1日（水）「ヤビツ峠」塩谷 弘道



＜学びの収穫祭＞



＜城山公民館まつり＞



問 題

都井沢バス停から普門寺に向う道路の右側に「尻無沢」と言う石標柱があります。何と読むのでしょうか？

1. しりなしざわ
2. しりむざわ
3. ひなしざわ

⇒解答は4ページ



ニホンリス（げっ歯目リス科）



朝、散歩をしているとクルミの殻が半分に割れて落ちていました。これは、もしかして？と思って、翌朝同じ道を通るとカリカリと音が聞こえました。あたりを見回すと、木の枝に座ってクルミを食べるリスがいました。リスに出会えたこととそのリスがニホンリスであることを確認してうれしくなりました。

近年、特定外来生物であるクリハラリス（タイワンリス）が鎌倉や藤沢、小田原へと北西に分布を拡大しています。クリハラリスは、果実や種子を好み、深刻な農林業被害をもたらし、固有種であるニホンリスやムササビ、モモンガなどと餌や巣場所が競合してしまうため、生態系への影響が大きいとされています。

ニホンリスとクリハラリスの違いは、ニホンリスは、お腹が白く冬は耳に毛（房毛）が生えています。クリハラリスは、お腹が灰色で一年中耳の毛はありません。クリハラリスについては「クリハラリス情報ネット」等をご覧ください。

（文・写真 長久保 梓）



リスがクルミを食べた跡



城山探訪

＜津久井観音霊場 本開帳＞

十二支の午の年に、江戸時代より継承されている、津久井三十三所観音霊場御開帳巡りを、昭和53年の春、父母と叔父と私の四人で私の自家用車で行いました。

お参りのきっかけは、津久井郡観光対策協議会発行の冊子、津久井三十三所観音霊場（※1）でした。巡礼経路は、冊子に同封されていた津久井三十三ヶ所観音菩薩霊場巡拝案内図を参考にし、自宅に近い場所から始め、その時の写真を冊子2冊にまとめました。（※2）参拝には御朱印帳を持参し、全てのお寺さんより御朱印を戴きました。（権守 功）



（※1）



（※2）



＜第4番 湘南寺＞



＜第5番 久保沢観音堂＞



＜第37番 大正寺＞



＜第39番 東林寺＞



＜第6番 宝泉寺＞

津久井観音霊場は、宝暦年間(1751～1764)根小屋の雲居寺の大雲禅無和尚が、観音様を祀る寺院に呼びかけて雲居寺を1番に長竹来迎寺を33番とする津久井三十三ヶ所観音霊場を開設したことに始まり、現在は札所43か所、城山地区には写真にある5霊場があります。今年（2026年午年）5月10日(日)～5月23日(土)まで津久井観音霊場札所会主催、本開帳が行われました。

＜出展：津久井観音霊場札所ガイドブック 平成25年12月改訂津久井観音霊場札所会 発行＞

境内に立てられた回向柱（えこうばしら）には観音様の指先に結ばれた、5色の紐が結ばれており、これに触れると観音様の指に触れたことになるといわれている。